

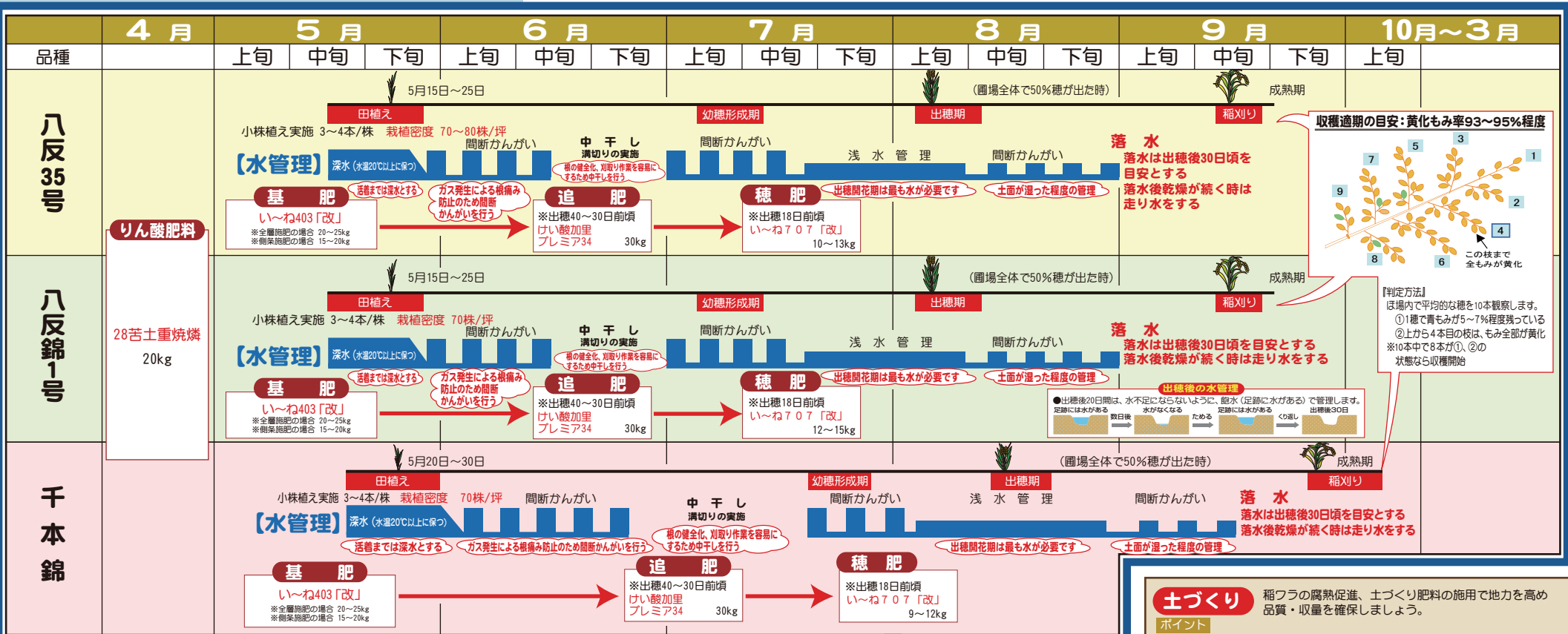
米品質向上のポイント

- ① 堆肥・土づくり肥料を施用し地力を高める
- ② 適正な植付本数の実施（過剰生育の抑制）
- ③ 活着後の間断かんがいの実施
- ④ 中干しの実施（過剰分けつ抑制）
- ⑤ 早期落水をし（出穂後30日を目標。乾燥が続く時は、走り水の実施）

植付株数の目安

株間(cm)	mあたり株数(株)	坪当たり株数(株)	箱数(箱/10a)
15	22	70	20

生産基準と管理(使用量10a当たりの目安)

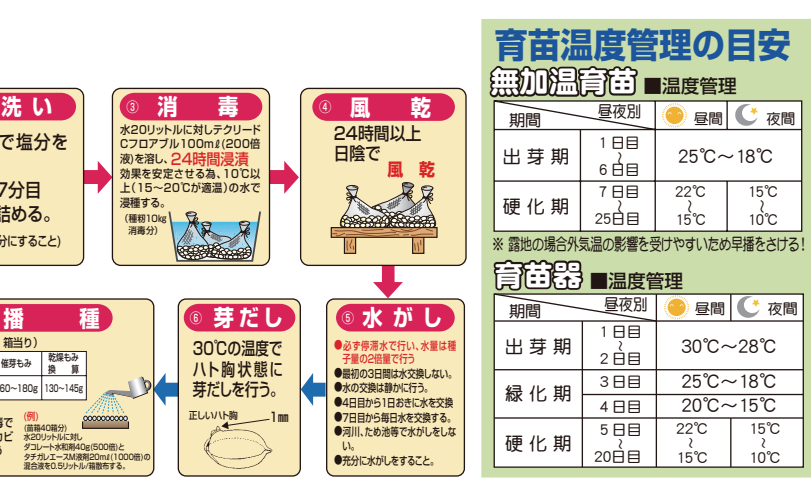


水がしと播種日の目安(例) 種子消毒

品種	水がし開始時期	播種時期	田植時期
八反35号	4月10日	4月20日	5月15日
八反錦1号	4月10日	4月20日	5月15日
千本錦	4月20日	4月30日	5月20日

■種子量に対する薬液・水量の目安

播付面積の目安	1反(10a)	2.5反(25a)	5反(50a)	1町(100a)
種子必要量	4kg	10kg	20kg	40kg
種子消毒時の水量	8リットル	20リットル	40リットル	80リットル
種子消毒剤	40ml	100ml	200ml	400ml



育苗温度管理の目安 無加温育苗

期間	昼夜別	
	昼間	夜間
出芽期	1日目 25℃~18℃	6日目 25℃~18℃
硬化期	7日目 22℃ 15℃	15日目 15℃ 10℃

育苗器

期間	昼夜別	
	昼間	夜間
出芽期	1日目 30℃~28℃	2日目 30℃~28℃
緑化期	3日目 25℃~18℃	4日目 20℃~15℃
硬化期	5日目 22℃ 15℃	15日目 15℃ 10℃

除草剤散布前後のポイント

除草剤の効果

一般的に水田に散布された除草剤はいったん水に溶けて3~4日かけて土壌に吸着され、土壌表面に薬剤の「処理層」(およそ土壌表面の0cm~3cm)を作り、小さな雑草を枯らしたり、発芽させない仕組みです。

使用上の留意点

① 代かきは丁寧に均平度を保つこと。土壌が均平でない深い所に薬剤が多くなり、薬害の原因になる場合があります。また、湛水深が不足すると効果ムラの原因となります。代かきを丁寧にを行い、畦の補強をして水深をしっかりと保てる圃場環境の整備をしましょう。

② 雑草発生前の早めの散布を行いましょう!

③ 除草剤散布後は、3~4日間は湛水状態を保ち補植は行わない。



除草剤の使い方

除草剤使用時期	田植前後日数	品名	使用量(10a)	使用時期
低コスト(一発処理)	-7	バッチリ (1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・400g	田植直後~ノビエ2.5葉期まで(田植後30日まで) 田植同時散布可能(ジャンボを除く)
標準(体系処理)	-	サキドリEW エリジャンジャンボ	500mℓ 300g	田植直後~ノビエ1葉期まで(田植後30日まで) 田植同時散布可能(ジャンボを除く)
高機能(体系処理) 難防除雑草対策	-	サラブレッドKAI (1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・400g	田植直後~ノビエ2.5葉期まで(田植後30日まで)
-	-	ゼータタイガー (1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・300g	田植直後3日~ノビエ3葉期まで(田植後30日まで)

後期除草剤(残草対策)

品名	使用量(10a)	使用時期	使用方法
ヒエが残った場合	ヒエクリーン1キロ粒剤 1kg	田植後15日~ノビエ4葉期(収穫45日前まで)	湛水散布
ヒエ以外が残った場合	バサグラン粒剤 3~4kg	田植後15~55日(収穫60日前まで)	落水散布又はごく浅く湛水散布
ヒエと多年生雑草が残った場合	サンパンチ1キロ粒剤 1kg	田植後15日~ノビエ3.5葉期まで(収穫60日前まで)	湛水散布
クサネム・イボクサが残った場合	ノミニー液剤	田植後15日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	落水散布又はごく浅く湛水散布

水田からの濁水流出による河川等の汚濁防止について

水田からの濁り水が河川に流出すると、農業者にとって大切な水田の土や水などを失うだけでなく、河川が濁り、水生生物の餌場である岩ゴケの生育を阻害するなど、環境にも負荷をかけることとなります。次のことを心がけ、環境にやさしい農業に取り組みしましょう。

3つのポイント

1. 畦畔からの水漏れを防止しましょう!
2. 代かき・田植え時に排水口から漏水がないよう確認しましょう!
3. 浅水で代かきし、田植え前の落水を行わないようにしましょう!

病害虫防除

薬剤名	病害虫名	使用量	使用時期
テクリードCフロアブル 200倍液	いもち病	200g/箱	緑化期~田植当日
ダコレート水和剤 500倍液	いもち病	50g/箱	田植3日前~田植当日
9チカエースM液剤 1000倍液	いもち病	100g/箱	田植3日前~田植当日
イネトクオイムン	いもち病	50g/箱	田植3日前~田植当日
ライオンボ	いもち病	50g/箱	田植3日前~田植当日
フルターボ粒剤	いもち病	50g/箱	田植3日前~田植当日

土づくり

稲ワラの腐熟促進、土づくり肥料の施用で地力を高め、品質・収量を確保しましょう。

① 稲ワラの腐熟促進: 秋~春(稲刈り後~3月)に稲ワら腐熟促進剤を施用し耕運する。

② 土づくり肥料の施用: 堆肥 1000kg、ミネラルG又はケイカル 毎年施用の場合 120kg、隔年施用の場合 200kg

肥料成分表 (%)

肥料名	N(窒素)	P(リン酸)	K(加里)
い〜ね403「改」	1.4	1.0	1.3
ネオベスト1号	1.2	1.2	1.2
けい酸加里プレミア34	0	0	2.0
い〜ね707「改」	1.7	0	1.7
ネオベストSR502	1.5	1.0	1.2

中干しの目安

品種	有効基数の目安
八反35号	16~18本/株
八反錦1号	20~22本/株
千本錦	15~17本/株

倒伏軽減

倒伏軽減剤使用時期の目安

出穂前日数	ロミカ粒剤	ビピフル粉剤DL	ロミカ粒剤
-34	幼穂形成期	倒伏軽減剤の使用期間	出穂期

傾穂期(乳熟期頃)

品名	使用量	使用時期
いもち病・紋枯病・カメムシ類 アミスターレボSE	100mℓ/散布水量100ℓ(1000倍液)	収穫14日前まで
いもち病・カメムシ類・ウツカ類	100mℓ/散布水量100ℓ(1000倍液)	収穫7日前まで